

桑野塾

桑野塾 検索

<http://deracine.fool.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。
どなたでもご参加いただけます。
それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

第25回

2014年
7月12日(土)
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 早稲田キャンパス16号館 820号室

★どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。参加無料

☆終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)

※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。

※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



1930年代のロシアアヴァンギャルドとサーカス

『賢人』から『サーカス』へ 報告者: 大島 幹雄



『サーカス』(1936年)ポスター
ロシア版 Wikipedia より

ソ連映画『サーカス』とは何だったのか

20年代アヴァンギャルドがサーカスにいっせいに向かったなか、最もサーカス的な作品となった『賢人』(エイゼンシュテイン演出、1923年)の中で、主役を演じ、高度なテクニックを要する綱渡りを演じたアレクサンドロフが監督した映画『サーカス』(1936年公開)。空前のヒットとなったこの映画は、アヴァンギャルドの精神から遠く離れたものだった。

この映画が意味するものをあらためて検証することによって、アヴァンギャルドたちがサーカスに賭けた夢のありかを探る。

●大島幹雄(おおしま みきお)
サーカスプロデューサー。著書に『サーカスと革命』(水声社)、『明治のサーカス芸人はなぜロシアに消えたのか』(祥伝社)など。

ロトチェンコの二つのサーカス 報告者: 河村 彩

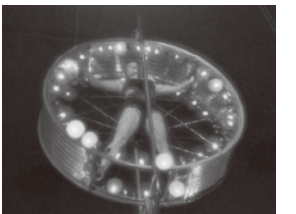


アレクサンドル・ロトチェンコ(1891-1956)

幻の“サーカス特集号”の写真と絵画作品

構成主義のリーダーとして数々の家具デザインやグラフィックデザインを生み出したアレクサンドル・ロトチェンコは1920年代後半からは写真を手がけ、ソヴィエト写真のパイオニアとしても活躍しました。1930年代以降、ロトチェンコはグラフィック雑誌『建設のソ連邦』において数々のフォト・オーチュルク(写真エッセイ)を手がけました。1940年、『建設のソ連邦』はソヴィエトのサーカスについての特集を企画し、ロトチェンコはサーカスに足しげく通ってはアクロバットや動物の様子をフィルムに収めました。しかし第二次世界大戦の戦火が激しくなったため、この特集号が発行されることはありませんでした。

今回の発表では近年出版されたロトチェンコのアルバムに収録されたものを中心に、幻に終わったサーカス特集号の写真を考察します。また写真家として活躍する一方で、ロトチェンコは公に発表することなく私的に絵画を描いていました。これらの絵画の中にはサーカスをモチーフにしたものが多数あります。写真と絵画の二つを対象に、ロトチェンコにとってのサーカスを考察します。



ロトチェンコのサーカス写真



『建設のソ連邦』表紙



ポスター「あらゆる知についての書籍」

●河村彩(かわむら あや)
ロシア・アヴァンギャルド美術を専門に研究し、東京都内の大学で非常勤講師をつとめる。